

# OITA Life

大分で暮らす。大分で生きる。

全5回 **お金編**

## 気になる 最旬保険 チェック!

### 収入保障保険

月々、数千円の保険料の商品も多い「収入保障保険」。被保険者にもしものことが起きて、働けなくなったり、死亡した場合に家族に支払われる。ノンスモーカー、健康体の人には保険料の割引引きや、三大疾病などの保障とセットにできるものもあるので、入りやすい保険といえる。

#### POINT

- 保険料は基本的に掛け捨てとなるため、貯蓄性はない。
- 生命保険などに比べて、月払いの保険料が割安。
- 一括ではなく、毎月、長期に渡り保険金を受け取ることができる。

### 地震保険

地震大国・日本だけに注目される「地震保険」。基本的には被災者の生活再建を目的とするため、必ずしも全壊した家を再建できるとは限らない。また罹災証明書や被災後の現場写真などが必要になるケースが多いので、必ず補償内容の確認を。

#### POINT

- 火災保険では地震や津波による被害は補償されない。
- 地震保険は火災保険とセットで加入する。地震保険は単体では加入できない。
- 火災保険・地震保険の補償対象は「建物」「家財」で分かれている。

### がん保険

テレビCMでも良く見かける「がん保険」。診断、入院、手術、がんの種類や段階により保障内容が複雑なものも少なくない。また、がんだけでなく、脳卒中や心筋梗塞などのがんと同じようなリスクを持つ疾病に関する保険についても考える必要がある。

#### POINT

- 保険会社や商品により保障内容が異なるため比較検討が必要。
- 放射線、先進医療による治療などかかる費用を把握する。
- がん保険にのみを契約していて、5大疾病などの保障を見落とすケースがある。

※上記の保険に関する情報は各保険会社、各商品によって異なる場合があります。(参考)「保険フリー」(保険ソサエティ)

## 第2回 子どもの教育資金から終活まで

# 今から考えよう、気になるお金の話。

結婚、子育て、老後の生活…「人生100年時代」といわれる中、ライフイベントには、さまざまな出費が控えている。大分の暮らしにスポット当てた特集「OITA Life」第2回のきょうは、子育てに関わる教育資金や、「終活」の観点からのライフプランニングなど、何かと気になるお金についてスポットを当てた。個人はもちろん、家族にとっても大切なお金のことだからこそ、今からゆっくり、じっくり考えてみよう。

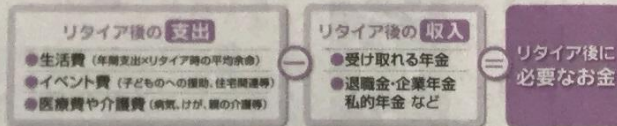
企画・制作 / 大分合同新聞社ビジネスサポート部企画編集班

大切。持つことが



生活費や医療費などの「かかる費用」から退職金や年金などの「収入」と「貯蓄」を差し引いた金額が老後に必要なお金となる。余裕があれば「何に使おう」という楽しい話もできる。もし不足額が出たとしても、目安を知ることや対策をじっくりと考えるなど、定年前に早めに算出されるなど、セカンドライフまでの「準備期間」を長く持つことが大切。

### POINT 2 老後の生活にかかるお金はいくら?



### POINT 4 エンディングノートを活用しよう

自分史の振り返り、介護、葬儀などについて自分の思いをつづる「エンディングノート」。単に記入するのではなく、自分の考えをまとめて大切な人に伝えること、お互いに理解をすることが大きな目的。お金の問題も含めて、もしものときが訪れた際、残された家族が迷ったり、後悔することがないよう、ぜひ活用してほしい。自分の身の回りを整理して不安をなくすことで人生のゴールディングタイムのスタートラインに立てるはずだ。

書店などでも見かける「エンディングノート」は「人生の備忘録」。これまでの歩みを見つめ直しながら老後を考えるための指標となる。財産や有価証券について記入する欄や、遺言に関する項目などもある。

(参考)「今からはじめるリタイアメントプランニング」日本FP協会、終活むっど、NIKKEI STYLE

「終活」におけるお金の話は決して暗い話ではない。セカンドライフに使える時間は約20万時間。まずは、残りの人生を謳歌するために「やりたいこと」「楽しみにしていること」を夫婦や家族と相談しながら挙げてみよう。趣味や旅行、住まいのリフォームなど、何歳でいくらくらいの費用をかけようと思うのかを見積もってみよう。出そろったら優先順位をつけていくと、やりたいことにかかる費用が見えてくる。

1回 趣味 年4回登山 1回 3万円	2回 海外旅行 2年に1回 1回 50万円	3回 リフォーム 500万円	4回 子どもへの結婚資金援助 約100万円
-----------------------------	--------------------------------	----------------------	-----------------------------

### POINT 1 イベントの金額を見積もってみる

### POINT 3 財産についてリストにしてみよう

預貯金、不動産、生命保険などをリストアップすることで、どのような財産があるのか、忘れていた資産に気づくことがある。また、複数の保険の内容の重複や保険料の見直し、複数の銀行口座など不要なものの整理にもつながる。一方で住宅ローンやクレジットカードなど「マイナスの財産」についても同様にリスト化することが重要。返済プランなどを考えておくことは本人だけでなく、残された家族の負担軽減にもなる。

リストにしておきたい項目

● 不動産	● 生命保険、個人年金	● ゴルフ会員権
● 預貯金	● 損害保険	● クレジットカード
● 株式、債権、投信	● 貴金属、美術品	● 公的年金など

人生のゴールディングタイムを迎えるために。セカンドライフを豊かに過ごすための「終活」。そこで避けては通れないのが「お金」にまつわる話。しっかりと考え、整理をすることで余計な心配をせずに、お金も時間も有意義に使える「人生のゴールディングタイム」を迎えよう。



【取材協力】株式会社ファイン ファイナンシャルプランナー CFP®、上級終活カウンセラー 安田 美子さん

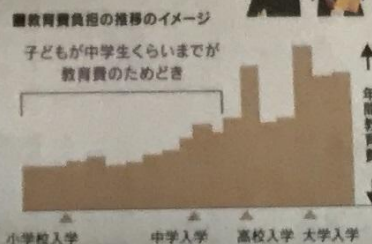
## 子どもの未来のために 教育資金をどう貯める?

日本政策金融公庫の調査によると、高校入学から大学卒業までに必要な費用の平均は、子ども一人あたり約935万円。教育資金の捻出は親にとって大きなプレッシャーになることも。だからこそ計画的な貯蓄が必要となる。

教育費に関して、教育ローンを組み、奨学金制度を利用する方法もあるが、それらを考える前に、まずは教育資金づくりに計画的に取り組もう。子どもの希望も聞きながら、公立、私立どちらに行くのか、県外の大学を希望するのかなどをなるべく早い段階でプランニングすることで目標金額が決まる。また貯蓄を基本としながら、無理のない金額で投資信託や株式などの資産運用にも取り組むことも検討してみよう。「ジュニアNISA」(少額投資非課税制度)なども有効利用しよう。

### 貯金をする

下記の図の通り、教育費負担は高校入学あたりから一気に膨らみはじめる。子どもの中学卒業までが貯めどき。この時期までに前倒して貯金しよう。



### 投資をする

投資先、投資商品をしっかりとチェックすることが重要。メリット、デメリットを把握し、一点集中ではなく、できるだけ分散投資することでリスク軽減ができる。

国が発行する安全性が高い債権 <b>個人向け国債</b>	1つの商品で分散投資を実現 <b>投資信託</b>
株式のように上場している投資信託 <b>ETF(上場投資信託)</b>	米ドルやユーロでお金を貯める <b>外貨預金</b>

※上記の投資に関する情報は各投資会社、各商品によって異なる場合があります。(参考)「投資フリー」(投資ソサエティ)